

やさい・花き部門

やさい

【方針】

振興作物の「トマト」、「にんにく」、「ブロッコリー」、「ねぎ」、「アスパラガス」を中心に推進し、販売の一元体制の強化と有利販売に努めます。

また、近年多発する自然災害や見通しの出来ない農業経営上のリスク回避と作業労力の改善を図り、各地域の特色ある作物の生産拡大と農業所得の向上を目指します。

【重点事項】

(1) 販売体制の強化

- ①共選施設の効率化を図るとともに販売の一元化を進め、ロット拡大による有利販売に努めます。
- ②重点市場や関係先との連携を密に図り、販売力を強化します。

(2) 異常気象に対応した栽培管理技術の確立

- ①夏期の高温対策として、遮熱資材の普及を推進します。
- ②自然災害の回避及び被害軽減のため、迅速な情報発信と対応に努めます。
- ③鳥獣被害の軽減、防止について関係機関と取り組みます。

(3) やさい生産の維持拡大と安定

- ①野菜を取り入れた複合経営を推進し、農業所得の確保を図ります。
- ②堆肥等の有機物施用や緑肥の作付けによる総合的な土づくりを推進することで、持続可能な農業を目指します。
- ③ビニールハウスの導入支援に取り組みます。
- ④新たに産地化を目指す作物の検討、推進および定着化を図ります。

(4) 省力化とコスト削減

- ・①土壤診断に基づく適正施肥を推進します。
- ・②効果的な防除体系の検討と、合わせて農薬コスト削減に取り組みます。
- ・③栽培の簡素化などトータル生産コスト削減に結び付く技術を検証します。

やさい重点推進作物

【にんにく】

- ①冬期の収入確保と労力の分散が図られる作物として作付けを推進します。
- ②優良種子の確保や肥培管理試験に取り組み、高品質・安定生産を目指します。
- ③乾燥技術の向上に取り組みます。

【ブロッコリー】

- ①栽培期間も短く、比較的初期経費が抑えられることから水稻転作の有望作物として推進します。
- ②JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。

【ねぎ】

- ①作型の組み合わせを推進し、安定生産につなげます。また、加工ねぎに取り組み、出荷労力の軽減を図ります。
- ②地域・作型にあった有望品種を検討し、高品質・安定生産の確立に取り組みます。

【アスパラガス】

- ①安定生産のため、立茎栽培を推進します。
- ②複合経営の観点から、簡素化の検証をします。
- ③JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。

やさい振興作物

【トマト】

- ①高温障害に対して遮光資材の推進と作型組み合わせによる高温期回避の栽培体系を検証します。
- ②基本技術の普及と迅速な生産情報の発信に取り組みます。
- ③大玉トマトは労力軽減が図れる「Uターン栽培」、ミニトマトは収穫が容易な「斜め誘引栽培」を基本として推進します。
- ④JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。

【ながいも】

- ①土壤病害対策と緑肥を活用した土づくりに取り組みます。
- ②障害に強い品種の選定や試験に取り組みます。
- ③グラスファイバー支柱の推進で作業の軽労化を図ります。
- ④JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。

【ごぼう】

- ①土壤病害対策と輪作体系に取り組みます。
- ②契約栽培面積の拡大に取り組みます。

【とうもろこし】

- ①初期経費が比較的少ないことから、ブロックコーリーに次ぐ転作有望作物として栽培体系の早期確立に取り組みます。
- ②JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。

【きゅうり】

- ①有望品種の選定や試験に取り組みます。
- ②支柱購入に係る経費に対し支援することで、新規作付者の獲得や増反に取り組みます。
- ③JA共選施設を活用し、組合員の出荷労力軽減と生産拡大を図ります。

花き

【方針】

トルコギキョウを中心とした生産に取り組み、産地としての地位確立に努めます。

【重点事項】

(1) 花き生産の維持拡大と安定

- ・①新品種や流行品種の試験及び情報発信に取り組みます。
- ・②ビニールハウスの導入支援に取り組みます。

(2) 異常気象に対応した栽培管理技術の確立

- ・①高温対策として遮光資材の積極的な活用を推進します。
- ・②講習会の開催により技術向上を図ります。

